

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に保育所の生活や保育士としての活動を体験する中で、保育所の内容、機能等を理解する。実習中は、実習先である保育所の指導に基づき、子どもの観察やかかわりを通して、保育の一日の流れ、乳幼児の発達、保育士の職務を学ぶ。また生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する。
日々の学びについては、実習日誌に記録し、指導者の指示を仰ぐこととする。

授業計画

- (1)実習期間 春期…9月の2週間、秋期…2月の2週間（実習園により日程が異なる。）
- (2)実習時間…1日8時間を基本として12日間、ないしは90時間を確保する。
- (3)実習内容…観察・参加実習を中心とするが、実習園の指示により部分実習を行う場合もある。

到達目標

- (1) 保育所の内容、機能等を保育所での体験を通して理解することができる。
- (2) 既習の教科全体の知識・技能を基礎として子どもへの理解を深めるとともに、これらを総合的に実践する応用力を養うことができる。
- (3) 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶことができる。

履修上の注意

- (1)保育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
 - ②「保育実習事前・事後指導Ⅰ」の授業に原則として全回出席し、授業担当者の指示を遵守すること。
 - ③保育実習に必要な学内のガイダンスに出席し、すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
- (2)実習中の欠席は特別の場合を除き認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要となる。

予習・復習

- (1)予習
 - ① 実習開始前にオリエンテーションを受け、実習園の概要理解に努める。
 - ② 「保育実習事前・事後指導Ⅰ」の授業を受け準備学習をする。実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
 - ③ 実習中は毎日、翌日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
- (2)復習

その日の実習が終了したら必ず実習日誌に記録する。日誌の作成作業を通して、実習の振り返りに努める。

評価方法

実習園の評価を中心に、実習生としての姿勢（30%）、援助に関する事項（30%）、保育士への志向（40%）という3つの観点（計12項目）で評価する。実習の全日程を終え、実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

「保育実習のてびき」と「保育実習事前・事後指導Ⅰ」で配布した資料プリントが、実習中のテキストとなる。配布資料は各自でファイリングをし、参照しながら実習に臨むこと。